

## 会議出席報告

平成 23 年 9 月 30 日

執筆者氏名 駒井章治、隠岐さや香（若手アカデミー分科会委員）

### 1. 会議概要 IAP と下記ダボス会議との共同開催による若手科学者のための国際会議

#### 1) 名称

(和文) 第 4 回 IAP 若手科学者会議 2011

(英文) 4<sup>th</sup> IAP Conference for Young Scientists 2011

#### 2) 会期 2011 年 9 月 12 日 - 17 日 (6 日間)

#### 3) 会議出席者名

駒井章治、隠岐さや香

#### 4) 会議開催地

中国・大連

#### 5) 参加状況 (参加国数、参加者数、日本人参加者)

24 カ国、43 名、2 名

## 会議内容

### ・日程及び会議の主な議題

9 月 12 日 若手科学者歓迎アクティビティー及びディナー

9 月 13 日 企業訪問 (Neusoft および BeTop を訪問。Neusoft において会議室をお借りし、ブレインストーミング) COE との議論や情報交換。その後大連海事大学訪問。大連海事大学の歴史や構成について説明を受ける。

9 月 14 日 複数名の有力科学者 (英 Royal Society、IAC 関係者等) を迎え、昨日のブレインストーミングについて意見交換。その後プレナリーセッション等、世界経済フォーラムに参加。夜は日本主催の晩餐会。

9 月 15 日 中国科学技術大臣 Dr. Wan Gang 氏を迎え、若手科学者の現状と中国のあり方について意見交換。その後世界経済フォーラムに参加。夜は大連主催のレセプション。

9 月 16 日 Japan Breakfast に参加。これからの日本について意見交換。その後世界経済フォーラムに参加。フェアウェルレセプション後、夜は夕食を取りながら統括会議。

### ・会議における審議内容・成果

Young Mentors により事前に決められていた“Mobility and Migration”、“Research Integrity & Scientific Responsibility”、“Access to Information and Knowledge”、“Young Scientist in a flat world”という 4 つの議題について各 10 名程度

のグループでブレインストーミングを行った。その後、学术界とビジネス界のインターフェイスの確立、および世界各国の若手研究者の状況を客観的に把握するためにデータベースの確立を行うことを確認した。ビジネス界とのインターフェイスの確立に関しては定期的な人材交流および躍動する世界経済との連携を図る必要性について声明をまとめることとなった。データベースの確立においては我が国のサーバーを利用する提案を行い、現在その可能性について検討を行っている。

- ・会議において日本が果たした役割

先にも述べたが、若手科学者の現状をより客観的に把握し、それぞれの科学者がここで得られたデータを有効に活用することが可能なプラットフォームの確立と、サーバースペースの貸与という点において我が国が大きな役割を果たそうとしている。これは本会議における根幹をなす役割であり、これは我が国が今後世界の科学者の状況把握、改善に向けて極めて重要な役割を果たすことができることを意味している。

- ・その他特記すべき事項

特になし

## 2. 会議の様相

今回で四回目を迎える夏期ダボス会議。今回は若手科学者グループとビジネス界とのインターフェイスの確立の重要性が問題となった。それぞれの考え方や使用する専門用語の違いから意思疎通がうまくいっていないことが取り上げられた。この問題を解決すべく具体的な成果を出すために連日密な議論が交わされた。

一方で若手科学者の環境改善のためにいかなることが実行可能かが議題に取り上げられた。各国での学术界の問題点をより客観的に把握することが先決であるという意見から、手始めに若手科学者を中心としたデータベースの作成を行うこととなった。登録した科学者はこのデータベースに自由にアクセスすることが可能で、各科学者はここで得られる統計データを元に各国の現状把握を行い、交渉の際には環境向上のための数値的根拠とし利用可能である。世界各国においてこのような根拠に基づく議論を誘導しうる働きかけは、今後の世界の学术界にとって極めて重要な方向性であり、早期の実現が期待される。今回の会議にはグローバルヤングアカデミー（GYA）の共同議長の一人である Bernard Slipper 氏が若手科学者として参加しており、今回の会議での議論をもちかえり GYA にて継続的に議論されるとした。

世界経済フォーラムにおける我が国の立ち位置として特筆すべきことは、東日本大震災に関連したセッションが多く開かれていたことである。エネルギー問題や緊急時の対応や今後の経済、教育に関して様々な議論が交わされていた。我が国の体験から何かを得ようと多くの参加者が興味を持ちセッションに積極的に参加していたことが印象的であった。し

かしフォーラム全体を通して、日本のリーダーシップの衰退が色濃く見られたことは非常に残念に思われた。世界経済の現在を語る場がダボスの経済フォーラムであるのに対し、中国はこのフォーラムを未来に関するヴィジョンと経済を語る場として位置付け、その姿勢が国際社会で一定の注目を集め始めている。日本はもっと積極的な姿勢を示してもよいであろう。一部の参加者からは日本国民の「議論・交渉力」、「語学力」の低さに対する意見も挙がっており、我が国のガラパゴス化が顕在化してきていると、教育者の一人として強い危機感を抱いた。

次回開催予定

日程未定 天津にて第5回 IAP 若手科学者会議の開催が予定されている。